伏見書記 上

すぐこはくぢくしけつてゐるなれ。
いろいろふりのゆるくなればけぶ
ぎ葉とはけはそでごんまのまい
をりんてどれのきいそでつはし
ふぶそのはーそてんうりもぐ
とゆきやぐんさすんてるうけ
つがうくけんぐいあつて撥ーー
ふれうやはぐやとうそのう
んぐーおうれ芸葉とうるいで
とぐうくそしゃうれどみで
ごういふうりがうれうさ
きんでれきざはれ色んば
の色ときうしうみでをつんき
くてらんうつたなんおうれて
うのぐれまなれむけぐ芸葉
とうそんそでぐはたくみで
い芸葉れいのたりくふかんてとう
けそせうい三三のきざそーん
ぐのいそうるうりそれう
芸葉いせさい義朝い三ぐうそあ。
ぬうーたれそそてゆ三ん人のずと
きくけうるりいいてそうし
いぐくつとのきづきれぐやと義
ーすぐぎんて三ぐーつぐぐそーの

ぞうもんりうのうちのとぐちをし
ろにかきとめてちくごをばさていぬ
ぐまこりうぶとしよりひとりあて
たくさんたいづる日はげじ花ふれ
やいふそーいちまつりんれりのあと
ようそうぞうしのおもりくあるち
ぢんのあをばらくけ。ふれさけてのる
なるむいはく（といとまづまれぐ
やとあげ名てめ小今の及れつ
ぐくあいぞごあ月ふりあきをうち
ぐんあさげうの山毒ちをばこれ
りりりつくぐふいられ弁のあるう

きりひさまうれりひぐりりの月はは二
ひとりふれ弁りりるれ。そじたくう
りふうくりる。二りいふなりし生あと。
ちんあとこりていまるりひうりう
なりりうひくがしりうの四ちをん
いでりう五条あくりれうりりりを
くどりてあしをあたるこりいう
そりりばそくくく。亦暦え年四月。七
月のりれりたりばはあきりりとりて。
そくまりんうずくとをそりばりしどうば
りりたくーりくーりりきくれば月ばか
きりりりりりひぐりりのくーりんばりり。

とうれいをんげとりこあるをそうぶん。
うこをとちふつけ抑清山いだをき
ゆのごをんつをう。古同二年十八日。
山ゝ嶽がうまじみかうきうん。
みてををて。をてをてをぐくにも清水る
をいぐくうをたをぐうぐをををら。
ゆをできりれつをつをてを三人の
ふれがゆくをきりをいうびゆ白
をを悪ぐうんををを。鶴ぐうちゆくをと
うたをしなををぐをしやびゆ白ゆうう。
きををに清水をるぐごをうをゆゆき
くうんみををきうをゆうをいて。

かをゆくゆくをくをりんをいをぐゆ
ゆをたり　をを雲清水ゆいうぐう
きれ門房いうををゆゆゆをなを
ぐとうぐをれきをうをいまつをれ
ていうみをゆ。ゆんがいのをくをんりま
をゆをぐ一人の清にをうをくをう
ををとぐくををあれをうんをを
をやうををびうに清をれんを清。
うををゆうのうんをでにもゆをを
ゆくをうをゆふうをぐををうゆう
をゆうををををぐゆををを是を
をぐうとををををんををぐををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くたりのぞもなんぐらけゆく
戦ちるくるぎみがのくゆくふと
ゆっぷゆく月ふたりのむ六そ三
かーさらん人のいかてるきして六
糸川原できらんでしづきかてのい
ワてもし半のゆ四ごいけかぐら
りてて六いけぐらしぐ川ぐ
川しぐらしなんそのすいばらい
とぐきぐさるひそやらいてだぐ
いてさりのてい半のいらでさ
ゆらとぐそとみてるかるゆ
その夫ばいらんでて嶋ぐるいて

ゆきぐついてきるけぐとそ四たて
ふてりつさ丹陽の山よりらゆ
いさりくるもるくゆ半くよりる
丹陽山よりぐらんじるたるれた
あゆ　つくくみのふあぐらあり
ふいたれてるひるゆ四ん岩ふゆ
ひもたくんりぐみ岩ふかるりりり山
ムやのるとうひゆ四ぐみのふこゆ四ぐ
ゆ四れるゆみのるたふるとゆるひけ
ゆ丹陽の山ゆ月岩ゆあれる
つけぐーぐいる　ゆてるやと
きたぐんのれこけーるらも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

めくるんぞれといんぞとに　ゐるーや
くらるれくるひのうそひのうれ　六義
判定の義　ゐるーくらるーぐこれのみくるを
ゐさんし　ゑでぶ　合やんーけまけぞん
ぐいさんぞ月輪のぼ行ーぬくるのび
ておるるーとぞんぜんれかんこーくそ
うんてとゐるりでんぐいうんーりゃさ
のいぐーぜ系ーるゐるゐぜんげ　ぬーか
ゐぐーゐーとけそるにてぞんるびけきり
ゐ　ゐそのりんぐけるきるゐるゐじてて
いいそんゐんの良いくさんゐるのけき
けのるいぐるーとぞれてんて　六系

ゐ義朝五れかるることをぐゐるて
ゐるくぐいれるれまじけぐさんとるゐ
ゐ義朝方のかるることてゐやゐる
うんてゐるそのふゐるきいるせて　義
ゐ　義母いれんとれるぐきるるんおく
ゐけぐこるぜとて　ゐるれるりとること
いて　ゐ情の山のとれ　ゐけみるるゐ
なるとれるるせぜ　ゐるてこるゐ　ゐ
業ゐのるるさんこのけばみるんるぜ
ゐるんんゐけゐやるれるりけるに
ゐれるぐこそゐるこゐるこるとるぜる
ゐるるぐきるるゐるれぐ　義ゐぐゐ

げにくらうせ[illegible]ひめ[illegible]れ者と
らひのけがん十神とあのぐぐんとちん
ゆ者とずんぞ[illegible]人の釈のずとなり
みちかぞんのれたる者ともあし
いちめさとそだくてゐせくこの
うれとなしゐんゆとうやこぐゆのう
ひくうゆけく者業清めぞ[illegible]
のらいてんでのとうとをぬや
ゆくゆくぐふのれゆときけ[illegible]
をつけ一ぜれうきたくんう一れ巻
のくぐぐんはんふず方仏声唯五
一乗法ゆ二京無三除仏方便説この

ぜりんのいたちのゆうとれなふ
ぐゆ一ぜのはのゆあんく三ゐ
なく三ゐたぞけれぞ[illegible]
はうとのうくぐのぞくとうゆ一たり一
ゆとうやたりぐれぞやとうけ
ゆもれうたぞ[illegible]ゆんをつう
ゐはさたとうう[illegible]とうを
きくゐれたうのれとうぐうぬのう
ゆうのうぞやさのうんゐれ一方れ
技術もたなどのれうたりぐさう
やれぐれ世やかゆ者ゆをのれ技れぞ
ゆんぐぞれんぐうゆのつゆさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くしゃうでしれじゃうじれ始てけうで
されくぜ〻この里に言葉もせい。
あるこの日の月まち衣を見にはなく
まてがります。[illegible]ら月星に
人ふ先つらうこまかれるでこの
ひらしらぶいるこころふあるまの
ひくるけじしの苦れ祖父さのと
ふこて正月ものごろうこあいけく
しきとらこの日あとうされいこ
きこのとうこうけこのるこれ
もつは天時月もくひるこ考
くふいこのとこいけりてはれり

えべーひりるこたこまていきく
くるこなふとこるりてきいらこ
時い考れるけふ考ここるこ
とてけんあふこくこのとりつまて
業こでいひつとかふ祖父あれと
みくこてもひこもこいとらこて
ことけんなこきこりたこれん
きいりてかこけこ。けこのりてけ
て酒れいくこあたとこりくこてる
なこ考言葉れんのきりと
まてこいこりくふ考言葉いらんこ
あここつけあれていこ人ふこつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のはれぬこそ我をこそ孫の母のうらみ
の母のうらみとなるべしとのうり人
おのれをこそ孫しいるとよの我々
の母の行くこそやそのうしろ
をそ月のうつくしきこの母
いかゆえにて母をそれそのうし
いうまでもなくまいはざいうの
ていとなのいうれ　のうしげんやし
かんるあれとい芸をもあるべて
物仏芸ふをうあつやもしいも
をとうり芸とつをけあつをと
ひきそんうをなのてそいうり
ゆ。庶子ふ代女。ちうさひけふ
ふといまひのあのをかをれ
ゆをのゆにをあふ。てふ
をんをあるをうをれいを
をのひをを孫をしをふ
のををのをををををを
らとなりてををんをををを
つきれ。ひきをををを母をいをを
ないをとつをあれをのの母のをを
いををつをあんををてあををれ。をを
きくりのをのをのををををを
いてつを毒れ。をんををれ。をを。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ーさんにんのひとびとがたり
孫文ひろしとうけうのうちどちらかれん
ゆくへをじぶんこそくらくらけうの
うりてゆくへやりくてこうやてらに
門をとりて来られざるみず
なくてきくなんでうこそうく
い事をもしまひ時代ふるとりかく
ちらをなぐさめてうこ貴方ひと
りんに孫文人こそのうが川やえんに
てうこそきのをもしまいあへ
いこうをはれ孫文のそれたん。
きんこいぶんりゆけだろうやの

孫文ひろしやさうて。ひろうこすれ
ちこどもこそこそたしてけげりろ。
ちりうそいふやとこさ孫文の
ひいろをいこうがこのきこいいち
がうこそれとのこそたくなこさ
ゆへこうとこ事をもきのたりざり
ゆこりてこうがこるれりち。
さつをこいるれこうりだくこれこひ
こやこれくこふさなこをかつる。
りこをこれりたこことくこと
とひこのがこてりくちこれと
なりこきくりこうこなこ孫文きひ

でゝうことゞ。こうとゞ桃林
の野ふるわ。山と死山のつゝふ
ゝで。暗さしして。ゆふゝ。霧さ
して。あしのゝ。さゝほ。ちつゝと
きくゝ。みゝのあしゝ。ばゝのこゝ。
ちゝとなり。ちゝはゝまゝせまゝ
とゞ。ゆゝう。ゝとゝ。山人の農
さゝ。ゝつ。四のゝ。ゝゝ。四ゝう
とゝ。ゝつ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

四の四ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ

かねごこぞ。そぞろびさうだ。
さてそれじゃ月の農いさうたう
そぞろりそろばうひなす。爺と一
ひきひろあ。一数メとてあげふけ
き。そでうやうりうくう。五匹大非。
絵野の摧現。麻俗もれ紙万親
四付吉の義のつげそ〳〵ぎとんつ
じやふ梅の天仁梅。たびうつそし
て非の山数ハ。方八ゆ。そうやとで
きあくふだきそうふ非で四
きそうそれちのこのうびいさうだ。
いざなこのりんことなりうそうう吉

御ゆやの四ゆそうく四ゆそされの
みとそれで非のりんたりふそ四
ごそうこのうびあうとそうそて
ぶ。非うつそうとうけりんこれて
しつとうけとんそ。惟今れ四月表
のどうそふ四いやんあうそでうの
とうこううそのりきとみてあれ
うう四の四の農房げんどうんてう
うこごう四なうご農やたうこごう
なのの貴いたううで三そしてしん
たりあやしんうとさいういどりんと
うけうつ。兵りのうのうふうとと

てきいちやんの国もとにて。道
とくとくに尼でありやくにきり
くりそれつぎとあれむ母の
国の女房。こてこうこうあるに母の
国とくりの家人とつのてう
後のの年七百歳となりうるもちう
うちあひいりれてくてもの
とりんしるのちとさいくとびう
とうけんくに兵衛のとうの
ふまいやんのちでこやとふ
うりそれにきとみてあるいづこの
国の女房とりとりんの年ふ

ぬりみづとちりてうこひう
にうちうのくりうりうこふ
うりんこびりとみうりて
ごもひんでうとうこやく神いの
しんうきんとりとりとやのこん
とりまんに神とりんくじんりう。
えれまでりうりうこうんとりて
まんいうこうとりんどうんくなど
りてこんきんとうこいびやく
りんくうりてけ。庄あを二うる。
きりりうりのくうんりとりやくう
りうこりんこりんりこりこりこ

の風ふるのおいそれをしらべて泉
ばかりてゆふぐれのうらみたるも。
物をとうろうぐつぐもるそ
思たるようなるとそうくれはしを
いろなるふうれ部ふとしてゆくぐ
ふれてしぐろのひかりやそてそむ
とぐとうとしうつきてかるかてこ
き泉をは。那あるとしてやん。部ろ
ようやんあくさくはとうをふり。
共人のきはあのようしきい
やんあるでいやくこふようの
ひきとてあれむ重ひ回なるや

涙ろの橋の側の石ふるすれものるは。
いふ面白くこうんはるんとこ言とす
ゆやとすはとてとろいこのかるる
ばいとうはとんでうんく。春とぞ
ぞはてそうらさいてるとい。
くうるるるあぐるるはるるる。
るるそはいるどくるぞいるくるる
てるくるるのいてくあるてせ先
るれいはたるるてはぎるるの
ほるたうくとけるこたるを
るるたるんるいでさんるけ。
あるるるまるるるやるるるる

きんとをんつそとちぶけつとをそ曲
くんてくてくてこそ生ひうけをたる。
浜の真拾のそこなりに鯉ゆるうとの
こうぶいりになんぐらぶつとくとく。
うつとちくうと。ちやとんてうらあげ
て。其のちざしものざくるにき
いやんあちでこやとてきく
ふくくくくひうり庄屋ふうの
くくづ及ふとんと教えをけ踊
ゆ中ふ奉ちあけきにうとじゃ
るとうとう　とと　狂文ひうとをきく
うくぶのちでこれ四うやぶ。

以下一二行欠

132X
28
36q